

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。一般質問も4日目の5番目ということで大変お疲れと思いますけれども、しばらくの間、御清聴くださいますよう、よろしく願いいたします。新政和クラブの3番目の——3人しかいませんけど、3人目の黒岩幸生でございます。出身地は北方でございます。どうかよろしく願いいたします。

月日のたつのは本当に早いものだなと最近感じておるところでございます。ことしの元旦は、すばらしい雪化粧の中に始まったわけでございますけれども、もう既に3月と、水ぬるむ季節、桜の季節も目の前であるわけであります。1市2町で合併してから3年の月日が流れたところでございます。3年の月日が流れたといいましても、そのうちの約半分、1年半は文字どおり市民病院問題に翻弄されていたと言っても決して過言でないような気がいたしているところでございます。そこで、今回は合併後の諸問題を検証しながら一般質問を行っていきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

ここで振り返ってみますと、実質的に国や県の主導で始まりました平成の大合併によりまして、政府の思惑どおり、もくろみどおりと言ったが正確かもしれませんけれども、市町村の数は3,232から1,773と、まさに半減したところであります。合併時に国や県はスケールメリットを生かすことで、サービスは高いほうに、負担は低いほうに合わせることができる、市民生活はよくなると言われていたわけでございます。スケールメリット、つまり1市2町で合併しますと、2人の町長が要らなくなる。助役、収入役、教育長も3分の1で済むようになる。何より大きいのは、議員定数を大幅に減らすことができる。その分、余った余剰財源を市民生活に回すことができる。だから、市民生活はよくなるんだ、サービスは高いほうに、負担は低いほうにということでございます。

実際、数えてみますと、北方、大町、江北、ここは山べた3町といいまして、炭鉱町で栄えたところでございます。これが切磋琢磨しながらも、大体何かといたら合わせてきたわけでございますけれども、議員数を数えてみますと、実質、北方が4人、大町が10人、そして江北が10人と、大町、江北の半分以下という状況になっているわけであります。佐賀県全体で見ても、県内の市町村議員の数は、今回の大合併の前には747人いたのに、合併後は423人となり、実に44%の削減率になったのであります。しかし、問題なのは、国会議員や県会議員は今度の合併で1人も減っていないのであります。杵島郡を見ても、北方と山内が武雄に合併したわけでございますし、県会議員の定数は1人減りました。しかし、武雄に北方、山内が入りましたけれども、人口はふえましたけれども、県会議員の数はふえていないのであります。全く関係ないところで1人ふえていると、こういう珍現象が起きているところでございます。

それでは、人員を削減することで市民生活は本当によくなったのでしょうか。市民の皆様本当に還元されたのでしょうか。自治体が大きくなったことで、市民の声が届きにくくな

った、こんなはずではなかったのが周辺部——午前中、牟田議員が武雄市の中で周辺部と言われましたので、へき地になるかもわかりませんが、周辺部、つまり北方、山内から大変多くの声が聞こえております。なぜでしょうか。また、当初の話、合併前の話とは逆に、サービスは低いほうに、負担は高いほうに合わせているのではないかと、スケールメリットは何も生かされていないのではないかと、市民が犠牲になっただけではないかとの多くの声も聞こえてまいります。

さらに合併後の検証を進めてまいりますと、合併前は北方、山内には、当然でございますけれども、町長以下四役、そして職員も山内が93名、北方は87名おられ、町民に対してきめ細かな対応がなされてきました。しかし、先日、北方町や山内町の支所を訪ねてみますと、合併後の今日では、支所長以下ともに25名の職員しかいなくて、本当に寂しい限りであったのであります。これからさらに支所の職員も削減されようとしています。これでは北方町や山内町は取り残され、周辺部となり、地域間格差が助長されていると住民の方が思われるのは至極当然のことだと思えて仕方ないのであります。

さらに問題なのは、北方町や山内町の支所長の権限、つまり裁量権や許認可権がどこまで認められているのか。何かあれば本庁に聞かなければわからないとする市政には、住民感情としては納得できないものがあると思います。そのことに多くの人が不満を持っております。これでは北方町や山内町の今までの特徴は生かされていくのか、甚だ疑問であります。合併のときの約束は、1市2町の均衡ある発展であります。1市2町が均衡ある発展をするためには、また、北方町や山内町の住民の方々に疲弊感を持たせないようにするためには、画一的な統一でなく、もっともっと財政的にも支所に柔軟性を持たせ、支所の特徴を生かせるように予算と権限を与え、支所機能を強化すべきだと思います。

合併前の合併協議会の中では、総合支所方式、つまり本庁をつくれれば、どうしてもそこだけが大きくなる。そういうことから、本庁をつくらずに、すべてが支所になる総合支所方式、あるいはまた分庁方式、例えば、北方町が事業部を持ったり、あるいはまた山内町が教育や福祉を持ったりなどなど検討したわけでございますけれども、その理由は、長年親しんできた北方町や山内町の役場が地域の核としての役割、心のよりどころとしての役割を1市2町がある程度融和するまで、当分の間、残しておくためだったはずだと思います。

午前中に山口裕子議員から事業部の部屋の話があり、感銘深く聞いておりましたけれども、残念ながら私とは結論が違ったようでございますけれども、私は合併協議会の中で、先ほど言いましたように、総合支所方式、分庁方式を真剣に議論してきた者として、本庁が手狭なら金を使って建てかえる、そういう話よりも、職員が少しは不便になるかもしれないけれども、例えば、先ほど申し上げましたように、北方支所に事業部、山内支所に福祉、教育を置くなどの考え方もすべきだと思います。

そこで、市長にお伺いいたしますけれども、1市2町の均衡ある発展とは、機械的に単純

に平準化せず、1市2町のそれぞれの特徴を生かしながら自然と融和していくものだと思いますが、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

合併の話については、やっぱり市民の心の問題だというふうに思っております。そういう意味では、黒岩議員がお示したその合併の方向と基本的には同じであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

懐かしい方もいらっしゃるかもしれませんが、**「さが進化論」**ですね。（資料を示す）市長、見られたかわかりませんが、これは佐賀県の総務部の市町村課から出てくるものです。これはコピーです。本物はカラーです。それで、これが私たちの合併協議会の指針になっていたんですね、市長。それで、将来の悩みということで、いろいろ心配を書いてあるんですね。市町村合併の不安はということに対して、Q&Aで載っておりますけれども、「市町村や町役場が遠くなって今までより不便になりはしませんか」、ブーですね。「本庁と支所とをオンライン化したりすることでサービスは今までと変わりません」。「中心部だけよくなって、周辺部は取り残されたりしないですか」、これもブーですね。「合併前のそれぞれの市町村が持っている歴史や文化、産業などの特徴を生かしながら、すべての地域が機能を分担し合って、新しい枠組みの中で新しい発想に立って、特色あるまちづくり、周辺部も配慮したまちづくりができる」、こうなっているですね。そしてまた、ほかにもありますけれども、合併して大きな市になると、住民の意見が反映されにくくなるのではないかと。あるいはまた、合併前の各地域の個性や特徴が失われていくのではないかと。税や公共施設の使用料などは市町村間で違うが、負担はふえるのではないかなどなどの不安が出されておりますけど、これに対して、意見が反映されにくくなったり、各地域の個性や特徴が失われていくことはありません。また、一般的には事務処理の効率化によって、サービスは高い水準を保ちながら住民負担は増加しない、こういう指針を受けて、ずっと合併協議会で協議をしてきたんですね。

これは懐かしいと思いますけど、合併協議会の協議会だよりです。（資料を示す）ずっと出しておられますね。ここは武雄の競輪場ですね。飛龍窯、そして黒髪の浪漫まつり、これは山内ですね。これは山内耶馬溪という夫婦岩ですね。これが大聖寺の火渡りですね。それで、これを私は一番ずっと好きやったのは、いつも一緒のことを書いてあったのは、ここなんです。私がずっと心の支えだったのは、「地域を超えたつながりあるまちづくりをめざし

て」、これが非常に好きだったですね。そういうことで協議をしまいで、その特徴あるのを生かしていくということだとずっと思っていたんですね。例えば、武雄、これは観光、文化、教育、芸術産業の非常にすぐれたところだと思います。山内は美しい自然を生かして、そして、もちろん自然を汚さないために農業集落排水事業、その事業が完了しているんですね。そして、環境を守ると。北方町は御承知のとおり、わかるように、道路網の交差点に当たるんですね。多久へ通ずる道でしょう。そして伊万里、佐世保、それから長崎、鹿島ですか、そして北に佐賀ですね。ちょうどここに当たるんです。そういうことから、北方町は道路網を生かしたまちづくりをずっとやってきたんです。

昭和49年に松本町長さんが誕生してから、松本町政でまた一緒にやってきたんですけれども、それまでは、先ほど言いましたように、北方は炭鉱町なんですね。炭鉱でずっと人口が減ってきて、当初、一番多いときは2万8,000人いたんですね。ずっと下がってきて8,000人切ったんですよ、昭和49年はですね。それで、松本町長さんはそれではいかんということで、ベッドタウン構想、とにかく若者を集めようということで、今ずっとありますけれども、西杵団地、昭和50年からずっと建てられましたけど、非常に応募がよかったですね。5階建てでエレベーターもないですけども、子どもさんを持つ若い夫婦連れを初め、いっぱい来られたですね。そのころは、いつ北方は入居選考委員会をするんですかということ武雄からも問い合わせが来よったです。大町からも来た。なぜか。北方にみんな来て、抽せんにごぼれた人たちが第2として行くという状態で、非常に好評だった。もう1つは、市長、ぜひこれを覚えてほしいのは、そのとき松本町長がしたのは昭和49年ですよ。3歳未満児医療費の無料化ですね、それをそのとき打ち出したんです。新しい近代的な住宅と、そしてそれを打ち出した。それがバックになって非常に住宅政策も進み、民間宅建業者もいろいろ入ってきたですね。そして、北方町の浮揚をしていったんです、住宅政策。だから、北方町は生活道路路面、生活関連施設、団地内舗装整備、これはよそと違って一生懸命力を入れてきたところなんですね。部長、まだまだ継続事業があるんですね。これに力を入れてきたところなんです。だから、そういう特徴があるのに、北方はと平準化されれば、やっぱり特徴が死んでいくんですね。

そういうことですので、市長にお伺いですが、1市2町が融和していくためには、もっと北方町、山内町の特徴を生かすために支所に重点を置いて、つまり支所に裁量権をもっともって持たせてやって、予算面も柔軟にしてやって、そして生活者重視の政策が必要だと。ちょうど昭和50年ごろを思い出しましたが、つまり心を優先した融合策、先ほど市長おっしゃられましたね。そういう政策を進めていくべきだと思いますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

地方分権というのは、究極、行き着く先は、やっぱり個人主権だと思うんですね。国の権限なり命令系統がどんどん行って、最終的に行き着くとは個人であるといったときに、ある意味、市町村合併は地方分権と反することなんですね、ベクトルがこっちに戻っていくという意味では。あるいは道州制もしかり。したがって、その観点からいうと、私は基本的に極端な地方分権論者ではありませんけれども、やはり個人の住んでいるお心、お気持ちを考えた場合には、黒岩議員が先ほど御指摘のあったように、支所に権限を柔軟に与えていく方向で私もかじを切っていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

特徴を生かすというのは、なかなか難しいと思うんですね。これは部長に聞いた方がいいかわかりませんが——市長がよかですね。市長が今、市長ですけれども、市長にならずに総務省に定年まで勤めたとして、そして、子どもさんが3人いる。北方、山内、武雄ですね。先ほど言いましたように、北方は非常に往来の激しいところに子どもさんが家を建てられた。どういう建て方をするかといいますと、まず木戸道を立派につくりますね。やっぱり花壇ということに目が行くでしょう。山内に家を建てられた方は、やっぱり美しい自然を生かそうとするんですね。だから、環境面に非常に力を入れた。農業集落排水事業を入れて、また家庭菜園もきれいにつくられたということですね。武雄は、先ほども言いましたように、文化、芸術、観光のまち。それに合わせた家づくりをされていた。まして武雄は武雄市民病院という主治医を持っていたんでしょう。それぞれ特徴があって生きてきたと思います。市長が定年になって帰ってきて、ぱっと見て、武雄は木戸道も舗装ばしきっておらん。家庭菜園は名ばかりで、草ぼうぼう生えておる。こう見たら、つい武雄に力を入れるようになると思います。そうじゃなくて、北方はそういうことをしていたら、ああ、それならこちら辺をもう少し助けてやろうか、山内は環境面、そこら辺を助けてやろうか、武雄を助けてやろうかということにしなければ、単に平準化すれば、ここは後で論議していきますけれども、サービスは低いほうに合わせていくようになるんですね。ちょっと勘違いしそうですが、サービスがどうしても低くなっていくんですよ、平準化すれば。そう思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は余り観念論が得意じゃありませんので、私はもともと実務者上がりですので、一つ一つの項目について、それが高いか低いという議論だと思っていけるんですけども、先ほど議員が大所高所からおっしゃっていただいた、サービスは低く下がるほうになるというの

は、もう少し御説明を賜ればありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

そのことを先に答えれば、例えば、北方は先ほど言いました住宅政策は非常にしておるですね。もったこういうことをしようと思っておるときに、していないところがあったら、これはとまりますね。3年なら3年とまるんですよ。そしたら、ここは進まんですよ。特徴が失われていく。北方には文化会館も何もないんですからね。いろいろ違いがありますからということになりますけれども、例えば、道路予算です。（パネルを示す）これは資料をやっておると思えますけど、いいでしょうか。これが山内、北方、武雄の道路維持管理費の推移です。1番目の資料です。山内は青で書いております。それには色ついていないと思えますけど、旧山内町と書いてありますけれども、16年度が1,117万円、17年度が4,545万円、18年度、合併した年が1,614万円、そして19年度が1,755万円です。北方町はといいますと、16年度が4,249万円、17年度が5,177万円、そして18年度、合併した年ですけれども、この年が3,567万円、そして19年度が1,875万円と、こういう状態が出ているんですね。恐らくこれは先ほど言いますように、部長にお伺いしますけれども——市長が査定しませんよね、最後はしますけれども。見た目、いろんなところで舗装は舗装と単一的に比べますね。北方は道路がすごかった、山内は環境がすごかった、こういう中で、低いところに合わせれば片一方は進歩はとまるんですね。実際、道路予算は、道路維持管理費は落ちているんですね。このことについて、どのように思われるか、部長、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

道路維持費につきましては、合併を機にある程度見直しをしまして、おおむね統一性を持たせた維持管理に努めているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、統一したと言われたらしょんないですけども、例えば、先ほどから何遍でも言いますように、維持管理が要らなかつたら道路改良費に回すとか、道路予算は道路予算として、北方町は今までしてきたぐらい大体あるですね。山内町がしてきたともあるんです。武雄市は武雄市でほかのとをしようたからですね。そういう流れはある程度きながら、そして北方は北方、山内は山内で心を丸めながら自然と心を武雄市に持っていくと。だから、一遍に事業をぼんと冷たくいけば、今までよかったところが悪くなっていくというんですね、し

ませんから。

そういうことなんですけれども、道路改良費に回すとか、だんだんいきますけど、そういうことが要る。危険箇所の改良とか、やっぱり予算額をある程度一緒ぐらいしてやるべきだと思うんですね。そういう言い方なんですよ。例えば、北方町——山内町も一緒だと思いますけれども、農免道路の草刈りなんかもしよったんですね。もちろん幹線道路の草刈りしていましたが、道路維持管理に力を入れてきましたからね。しかし、北方からお願いと言うぎいかんばってん、本庁に伺ったところが、そのくらいのところならどこでんあると断られた。だから、合併してから、恐らく山内も一緒と思っておるけど、切っていないですね。そういう状態が今起きているんですよね。それくらいというぐらいなら、それくらいのところをしてくれませんか。市長、これは削減のし過ぎと私は思うんですよ。だから、何遍でん言いますけど、整備より平均がいいととめておけば、そこの特徴が失われていくんだという論法ですけれども、まだまだ市長はぴんとこん、何かずれているようでございますけど、私は観念論者みたいに言われますけど、私も本当は唯物論者ですよ。だから、特徴を生かすためにも、道路予算全体は今までどおり確保してやるべきだと思いますけれども、それは順番が変わるだけなんですよね。北方がよくなったり、山内がよくなったりですね。と思いますけれども、わからないならわからないでいいですよ。私はそう思いますので、答弁を求めておきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

だんだんわかってまいりました。私、先ほど黒岩議員がお示しいただいた1のパネルでございまして、これだけ差がついているというのはちょっと思いもしませんでしたので、私どもとすれば、必要なところに必要な予算というふうに思っておったんですけれども、予想以上にこれだけ差がついているということは、これはちょっとやっぱり是正をする必要があるだろうというふうに認識をしました。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

余り理解が早いので、説明しなくていいかもわかりませんが、この次をめぐってください。これは道路改良費の推移なんです。道路予算の一つですね。青が山内で、これ単位は万円ですから、1億3,767万円、17年度が1億7,363万円、18年度が1億8,420万円、18年度が合併の年ですね。そして、ぽっと落ちまして平成19年度が6,997万円、平成20年度が1億2,000万円、平成21年度が1億2,200万円なんです。北方はといいますと、16年度が1億2,850万円、平成17年が1億5,190万円、18年度、これは合併した年なんです、2億5,031

万円、立派にしてもらったから喜んだですね。調べてみました。そしたら、34号線にリムスがあるですね。あれから100メートルほど東に行ったところから医王寺のほうに道路があるですね。六角川を渡っているんです。その六角川に亀裂が生じたんですよ。だから、急遽予算が要って、それを修繕してもらったのが2億5,031万円ですよ。19年度はふえています。19年度も1億5,600万円、そして20年度が1億3,800万円、さらに21年度は7,800万円。結局は維持管理費も改良費も減っているんですね。それだけ一生懸命北方は力を入れてつくっておったからですね。しかし、まだまだ継続事業はあるんですよ。武雄はといいますと、やっぱり大体平均来ております。16年度が1億4,106万円、17年度が1億5,190万円、18年度が1億2,938万円、そして19年度が1億2,502万円、20年度がちょっと落ちまして9,650万円、そして21年度は上がりまして1億5,600万円と。大体これがさっきと比べて一緒ぐらいの道路予算でいけないかというのが、その均一化の話なんですね。

だから、総合予算が必要だと言いましたけれども、私がおった北方町は20部落あるんですよ。そこに毎年50万円、一般土木ということでしてきたんですね。これは戸数が大きいところも小さいところも一緒の50万円なんですよ。今、1市2町の話していますがね、一緒の50万円をやって、そしたら、例えば小さい部落で金が要るときには、毎年50万円ですから——大体50万円ですよ。100万円使えば、その次しないですよということで長年やってきたけど、それぞれ自分のまちをつくっていく。その点、頑張ってきて、あるところは飛び抜けてよくなったというのはないんですよ。私が50年になったときやから、もう三十何年もずっと一般土木をしてきたですね。むしろ、まちよりも周辺部、怒られますけどね、周りのほうが余計金の要るんですよ。北方町はそういう状態だったですね。そういうのをやってきましたから、1市2町で合併しても、最初見たときに、ああ、北方は舗装のよかねと思って、回り回って一緒なんですよということですね。だから、予算が多いからといって削れば、後で逆に大変なことになっていくという話ですけども、山内も一緒みたいな状況があるんですよ、道路予算も。環境面は力を入れていましたからね。だから、何遍でも繰り返しますけれども、合理的に考えれば、市長が言うように、悪いとをぱっぱっぱと直していくとが本当かもしれません。合理的に考えれば、悪いところを直していけばいいんですけども、そうばかりとは限らんというのがですね、何というですかね、機械的にするじゃなくて——機械的じゃないと思いますよ。温かいぬくもりある考え方で支所を今までしてきたことをある程度一致させて、そこに心を合わせていくと。そして、心をまとめるということですね。市長、合併で一番大事なことは、私は均一なものよりも心をですね、市長はやっぱり人の心をつかむことだと思いますね。

だから、どういうことが起こっているかといいますと、例えば、北方町は特別養護老人ホームの杏花苑というのがあるんですね。御存じですね。あそこは全部舗装が済んでいるんですよ。あそこは民間業者さんがつくった団地なんですね。だから、見てわからんけど、ど

ういう状態かといいますと、断面を書きますと、民間業者さんで道を腹いっぱい取る人はおらんですね。やっぱりぎりぎり取るんですよ。建築基準に合うようにぎりぎりなんです。だから、どういう状態かということを断面で書きますと、道路があるんですね。その横はU字溝があるんですよ。これはふたがないんですよ。そして、その横が宅地なんです。だから、この宅地に家が建って塀が立てば、バスが通ったとき、よけれんとですよ。そういうことで、平成17年から入り口側からずっとふたつきになってきたんですよ。今、ふたつきをやっております。しかし、18年からとまったままなんですよ。あるいはまた、みどり台というところがありますけれども、団地です。これも個人の人がつくったところですよ。だから、そこはこの前、新聞配りに行って、こんな大きな穴に生コンで打ってあるんですよ。ここは市道じゃないんですよ。こういうことを書いてあるんですよ。この係は部長のところですよ。わかりませんか。「お近くの市道にへこみや穴があいているなど異常箇所があれば御一報ください」ということですよ。今、みどり台というのは、ほかのところも一緒ですよけれども、幹線は町道——今、市道ですよ。町道のほうが言いやすいから、町道なんですよ。支線は私道があるんですよ。しかし、共同物ですよ。なぜか。すみません、町道と言いますが、町道でしてしまえば不特定多数が通られるし、先を乱開発するおそれがあるんですよ。そういう北方町の特徴で、そこら辺、非常に気を使いながら、真っすぐ町がとらずに、わざわざ個人——個人じゃないですけど、不特定多数ですけど、共同ですけど、そういうところ、それを今まで北方町はやってきたんですよ。そういうことはしてもらえない、そういう現象が出ているんですよ。

そして、浦議員もきのうおっしゃったのが、山内の話ですよ。山内の宮野も予定していたけど、できないということで、お願いしますと言われたですよ。私もほかのところですけど、考えていたんですよ。それは山内町の黒髪に私の友達がいるので、黒髪の主要幹線、あるいは農道、この改良は今してもらっているんですよ。山内の今山にも友達がいるからですよ。そこも市道早稲田宮ノ前線ですか、名前は。そこの改良予定だったんですよ。これは山内町の総合計画、5カ年計画、平成17年度から21年度までです。この計画に平成20年度、90メートル、幅5メートル、そして平成21年度、80メートルの幅5メートルする予定だったんですよ。それがいろいろなことで、ほかにするところのあるということで、武雄市一円を見てされたかわかりませんが、今言いましたみどり台の人、それから杏花苑の道路、なおかつ早稲田宮ノ前線ですよ。宮野を言いんさったですよ。ほかにもあると思うんですよ。そうすれば、せつかく武雄市に合併してきて、期待しておった、できんごとなった。じゃ、今までの予算はどこに行ったんですよ。当然できる場所なんですよ。

部長、一言聞きますけれども、山内町、今言うたことができない理由は何ですか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

道路維持費の予算につきましては、毎年、大体1億円の予算配分をもらっています。その予算の範囲内で優先順位をつけて、今、整備を行っているというところでございます。それで、今議員がおっしゃった地区が計画どおりできていないといいますのも、その予算の範囲内からどうしても漏れてしまったというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

私、一番最初、部長に言ったですね。機械的平準化すれば、そういうとが出てきますよと。これでは私だったら怒りますよね、その近くおってですね。日本語で言うぎ、何や、合併したぎ悪うなったたいえとしかならないんですよ。だから、今までしてきた考え、いろんなことは、支所機能を生かして、そこに聞きながら、それは1億円の予算があれば枠が決まっている。しかし、今まで北方も山内もやってくる予定でしたからね。何も絵そらごと書いたわけやないですから、できにやいかん。それができていない。そうなるんですよ、市長ね。それが最初言った機械的平準化しようと思えば思うほど、いいところがはがれて、こういう現象が起こるんです。だから、今までと急変する。一生懸命だと思っんですよね。しかし、急変したら地方のほうに疲弊感になるし、真ん中だけよくなっていくという現象なんですよ。どう思われますか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだなと思いました。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、ずっと検証しますけれども、市長、検証してやっぱり助けるところは、あと1年ありますから、考え方を変えていく必要がある。私が一番言っているのは、一生懸命合わせよう合わせようとするほど、いいところは削られていくということなんですね。だから、ぜひともその心を持っていただきたいと思います。

これはきのうも出ておりましたけど、498号線の18年度の提案事項ですね。（パネルを示す）19年度も一緒でした。21年度は今度、市長からつくってもろうて中が変わりました。あえて前のことを言いますけれども、18年度を見てみますと、498号線ですよ。伊万里から鹿島まででしょう。伊万里、伊万里、武雄、武雄、武雄、塩田、塩田、鹿島ですね。武雄、こ

これは国道34号線から松浦バイパスまでの整備促進が10キロですね。もう1つ、武雄は、武雄市若木町本部地区の歩道新設ですね。さらには武雄市朝日町川上地区歩道整備ですね。これはもちろん498号線ですので、いかにもわかりませんが、このとき北方も合併しているんですね。武雄市なんですよ。

次、お願いしますね。（パネルを示す）図面ですね、そのとき添付された図面なんですよ。19年に私は指摘しました。これが498号線なんですよ。この丸のところは川上ですね。ここは赤をつけましたけど、皆さんとはついておらんと思います。地図のほうですよ。これが北方朝日線なんですよ。これは北方を歩いていくんですよ。これは先ほど富永議員と雑談しておりましたら、498号線はこっちゃん来ておろうもんと言いました。まさにその話は数年前やったんですよ。北方はそれに向かってずっと一生懸命してきた。しかし、後で言いますが、ドライブインふちがみのところでなかなか行かないという問題、いろいろ問題を抱えています。しかし、せめて図面に、今、買収されている、今、問題を抱えております34号線バイパスですね。市長、武雄から来たバイパスが買収してあるのは載っていないですね、今、市長に一生懸命してもらっているところですよ。せめて地図には、提案で498号線のあれであっても、武雄市の問題だということで、部長、なぜ載せることができなかったのか。やっぱり道路問題で、先ほど言われました35号線のS字カーブですか、あれだけみんな真剣になってやって、みんなのものとなっているんですよ。ぜひこれも北方じゃなくて、18年度からもう武雄市ですから。やっぱり疲弊感を感じずに、ああ、北方のことをしてくいよんさるたいというぐらいはすべきだったと思いますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員御指摘のとおりでございます。18年度、確かに大崎交差点のところの買収済みのバイパスまでの区間ですね、図面に載っておりました。ただ、34号期成会、これのほうには載っておったわけです。ちょうどここだけ載せるのを落としておりました。申しわけございません。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

では、34号線の期成会だったら、武雄バイパスからつないだ地図はありますね。あったら持ってきてください。——地図があったら、それをコピーするときは逆でも写るんですよ、私が言っているのは。持ってこなくていいですよ。写るんですよ、これをつくるとき。もしこれをあなたたちがつくれば関係ない道も写るでしょう。だから、これに載せておったのが一緒の地図であれば、ここら辺まで写りますよね、34号線の延長が。だから、34号線期成会

と結ぶところは一緒ですから。部長、武雄バイパスと北方のバイパスと接点は一緒なんですね。だから、34号線のほうで結んであったら、こっちで結んでいなければいけない。それは探してきてもないと思います。いいです、時間の無駄です。だから、今、北方で一番問題になっているところを、つまり私は何遍でも言うように、市長も言うように、先ほど答弁で——だれかの答弁やったかね、言ってもらったですね。34号線の延長と、35号線のS字を最重要課題として武雄市で持っていくと。欲しかったのはそれなんですよ。

次の質問に入りますけれども、次は図面ですけれども、北方朝日線のパネルですね。（パネルを示す）ここは写っていませんけど、これだけ武雄は白ですね、今。写っていません。ここは川上なんですね。この北方朝日線の問題線というのは、市長は今、一生懸命陳情に行っていたいておりますので、おわかりですけれども、私の目標は武雄みんなの問題にしたということなんですね。だから、ここに498号線が入っているんですよ。見えないですけどね。部長、地図を見てんですか、これは白ですね。18年度、19年度はこういう状態だったんですよ。だから、そうじゃなくて一緒の問題にしましょうと今から言いますけれども、これを川上から来て、ここが杉岳、あるいは松尾建設、変則4差路なんですよ。ここも山をとる計画だったんですね。だから、そこにおられますヤマケンさん、事務所を建てようにも建てられんとですよ、買収区域ですから。移転もされない。ちょうど松尾建設さんの入り口のところです。これがまだ問題が残っております。

それで、こう来て、ここら辺ずっと、はっきり言いまして、前の県会議員の藤瀬県議が大分力を入れてもろうて大きくなってきたんです。この問題は、このドライブイン、後で言いますが、こここのところの問題ですね。ここに上に丸書いてあるとがわかるですか。これが宮本議員がおっしゃっている工業団地の予定地なんですね。ここがインター。ここはうちん家ばってんね。わずか5分ぐらい行くところ、ここだけしかない。20町も30町も田んぼなんて埋められるわけがない。できませんよ。山もいろんな地権者もあるし、谷もあるし、川もあるし、これははっきり言って、うちの区長、後川区長は一押しですよ、ここしかない。家はここですからね、すぐ近くですからね。それはほとんどうちの地区だから、地権者の話もできる、スピード感もある、文化財もない。大体知っておるですよ。だから、提案者の一人なんですね。それを、あえてきょう言いますけれども、ここを松本町長が買い占めたという話ですね。転売するために持ってきたと。市長の選挙のとき、ばらまかれたですね。

〔市長「ばらまかれた」〕

4回、今まで橋下昭二という名で、北方町、橋下昭二で、北方はおらんです、そがんとは。前田さんという話があるばってん、違うですよ。違うですね。そしたら、違うそうなので、テレビを通して言いますけれども、議員の大半がもらっている橋下昭二さん、ぜひ何かあったら私のところに直接言ってください。武雄をもめさせることはやめてください。

すみません、ちょっと横道にそれでしたが、そういうことはありません。松本町長の土

地は1坪もありません。そして、私が聞いて、次の日、ここに持ってきたんですから、そのスピードで幾ら松本さんが早かっても買収し切らん。1坪もありません。これは皆さんに言うておきますね。だから、そういうことがあったので、宮本議員、さっきはすみませんでした。そういう気持ちがあったから。

本題に戻ります。今、武雄市北方で一番問題になっているのが、ドライブインふちがみのところなんです。これがカーブがきついということで、ここまで買収してきたんですね。しかし、その先が買収できないということで、先ほど言いました工業団地の話が来たとき、とてもじゃないけど、ここに大型車を通せば大変なことになるということから、再度、市長に陳情に来たんです。そしたら、よっしゃ、よっしゃやないですけど、頑張りましょうということで、今、稲富県議と、名前を出すぎ、また平野議員が怒られるかわからんばってん、稲富県議と、それから自民党の大物のところに行って、私はこれのできるなら、どこさんでん行く。左はこっちから右はこっちまでですね、どこでも行くです。それだけ地元が悩んでおところなんです。ここに点線がありますね。これを先ほど部長に、北方バイパス、34号バイパス、これは皆さん、25年前、買収してあるんですよ。それができていない。我々が力がないためでしょうけど、できていないものなんです。それを前、ある大物代議士に言っていたんですけど、その後、選挙に出られんで、また今度ほかの者に頼みよるですけども、この道路まで何とか延ばすことができないかということで、これは稲富県議はこの前、県会で取り上げておったですね。そういうことしながら、みんなでぜひともこの機運を高めてもらいたいと思います。これをつくらなきゃ、幾ら山内から早う来ようと思っても佐賀には早う行かれんけんね、みんなのもんですね。

だから、これは市長にお願いですけども——お願いじゃないですね。機運をです、先ほど言われましたから、もう一遍、決意でいいですけども、この問題、それから35号線問題、これを全部一丸となって、我々市議会議員も30人一丸となっていけるように、そして機運を高めて、中央突破しながら、ぜひとも今度つくりたい。それは私は市長に期待しているのは、あなたが官僚出身だからですよ。私たちはこの壁を崩し切らんかったです。だから、ぜひともそっちのほうから崩していただきたいと、そう思っておりますので、決意をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

黒岩議員おっしゃっていただいたように、私は役人出身、官僚出身であります。したがって、これは地域の機運を高めると同時に、これを最終的に決めるのは、やはり国交省であります。県の管理の部分もありますけれども、やはり国交省の意向が第一だと思いますので、国交省にそういう機運が広がるように、私自身頑張ってまいりたいというふうに思っております。

ます。

そして、これは今、稲富県会議員の名前も出ましたけれども、石丸議長さんを初め、ほかの県会議員さん、そして、これについては、大物代議士とおっしゃいましたけれども、はっきり言葉で言うと、古賀誠代議士であります。この方が物すごく尽力をいただいているんですね。そういった意味から、あらゆる手段を使って、この問題については一日も早く解決をしていくというのが私の使命であり、仕事の目標であります。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

古賀誠さんの名前が出ましたので言いますけれども、前、古賀誠さんの名前を私が出したとき、市長はある議員さんたちからブーイングの出たんですよね、何で地元頼まんとかというて。私も言いますけど、できんけん頼まんですよ。すみません、支持者の方がおられたですね。ごめんなさい。支持者の方がおられましたけど、すみませんでした。

だから、市長、合併後に一体となって取り組むということが大事なんですね。疲弊感を持たせないためには、やはり地域の特色、特徴、これはしっかり把握しておかにかいかんと思うんですね。だから、ぜひとも先ほど言った、できれば分庁方式、あるいはまた支所の許認可権と予算、ある程度余裕を持たせてやるという態度が必要だと思います。

この前、先週、確定申告に行ったんですよ、市長。そしたら、何気なく座って目の前を見たら、9日から武雄市文化会館へ移りますと書いてあったんですね。冗談じゃなかと思ったですよ。何でという気なんですね。移るんだと。聞いてみたら、山内も、いや、うちも困っておるたい、そがんことばいという話。山内は北方と違って、さらに公民館ですか、出向いていつて何カ所かされておったんでしょう。やっぱり市税を納めてもらう。そのため、税務署の加勢ばしよるわけでしょうが。お年寄り、車に乗れない人、あるいは書類をとりかえなければならぬ人、非常にやっぱりいろんな面で困る人が出てくるんですよ、こういうことをすれば。逆行やないかと思うんですね。

税務課長ておんさらんとか。そいぎ、総務部長よかですか。これが、それは合理化の一環かもしれません。しかし、住民の皆さんのサービスの低下になるということは、係なら確実にわかることですよ。むしろ今までは合併する前は——一緒ですけどね。広さは一緒ですよ。例えば、昔は文化会館でしていた。しかし、合併してスケールメリットが出ることによって、北方でもされるようになったですよ、山内でもされるようになったですよ、こうなっていくべきなんですね。今まで山内、北方でできたのが、なぜできなくなるかですよ。何でこういうことが起こるかですね。だから、私は朝日保育園も言いますけれども、こういうのに対しては、ひな壇に座っている皆さん方、みんなプロですよ。だから、こういうことが起こりますよと、市長と相対峙してでも住民のためにしてくださいよ。それとも住民の

ためになるというんですかね。後で聞きます。

それから、一昨日やったですかね、その前ですかね、大河内議員の話聞いていて、私は本当に顔から火の出たというんですかね、恥ずかしい思いをしたですね。朝日保育園問題なんですよ。つまり朝日保育園の定数が150名から120名に減ったのを知らなかった。ただ単純に合併するんだろな程度だったですね。そして、120名に対して164名応募があったと。それは幾らか新しいところに来る人がいるかもしれませんが、やっぱり調べれば、私は想定範囲内だったと思うですよ、余る、入らないというのが。今言うように150名から120名に下げたんですから、30名があれば、当然、動向調査、事前調査はできたはずでしょう。できて把握して、あるいは皆さん聞いて、一人でも保育に欠ける子が漏れないように——あなたは何て言うのかな、何じゃい言いよったね。（「スペシャリスト」と呼ぶ者あり）

あなたはプロですから、スペシャリストですからね。いや、本当ですよ。これは笑い事じゃない。

市長、私たち議員の仕事は何かと。私は一口で言えば、我々の先輩のお年寄りがありがとうと言うてくれること、そして未来を担う子どもたちの瞳が曇らないようにすること、この2つなんですよ。そのために若者の定住策をいろいろしますよね。私は今まで人生の大先輩がありがとうと言ってくれるようなことをせないかん。そしてまた、こっちでは未来を背負う子どもたちが目を曇らせない。部長、もしですね、すぐ朝日保育園の前で、ああ、今度4月から行かれるねと言いよった2歳か3歳の孫がおったと。あなたは孫いらっしゃいますか。——おられますか。そしたら、例えばの話ですけど、また関連のと言われると恐縮ですけど、雪の日に孫が外におって、あなたは家の中におることができますか。だから、今まで150人の入る部屋があった。それを120人の部屋に変えるというときには、たとえ官から民に移るときでも、やっぱり手厚く温かい気持ちでしてやるべきでしょうもん。調査をする。そして、救い切らなかつたら、園にお願いしてでも何らかの方策、認可外保育でもいいですからですね。そして、2年なら2年、3年なら3年かかってやっていこうということをやっぱり進言すべきじゃないですか。総務部長も先ほど言うたことは市長に進言すべきじゃないですか。来年どうなるんですか。それぞれ聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

確定申告の件でございます。まさに事務的な話になって申しわけございませんけれども、20年度から課税事務を本庁に一本化したところでございます。それにあわせて課税職員を減少したというようなことも含めまして、今まで北方、山内、19年度はそれぞれ1カ月間、旧武雄市につきましては、6町ごとに2日間ずつ行って、あと最終的には文化会館で行っておりました。今回、そういった事情のもとに1週間分、北方、山内、文化会館に来ていただく

ようになりました。これにつきましても、非常にそういった意味では遠くなったということで迷惑をかけております。今後、内容体制を充実させるというようなことも含めまして、今回の体制等を検証しながら、サービスの低下にならないよう来年も努めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

朝日保育園の定員が今のところ120名ですので、この定員増につきましては、朝日保育園のほうに定員増ができないか、市としてお願いにまいりたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

他人事じゃないですか。私が言っているのは、時間がないから言いませんけどね、官から民へ移る、減らしたと。それは園は園の事情がありますよ。しかし、子どもたちは一緒じゃないですか。だから、そういう状態であれば、それは若木問題いろいろありますよ。若木は定員割れ、いろいろありましよう。しかし、目の前の朝日の子が行けない、そういうのを何とかしてやろうと。永久にとっ言っていますよ。150名から120名に落ちるから、当然想定された範囲であって、ことし、それを打ち出さなきゃいかんでしょう。先ほど言ったように、あなたはぬくいところでストーブをあおりながら孫を外に出しておるようなものじゃないですか。何で検討できないんですか、これくらいのことを。

いいです。ぜひ市長、これも合併の一つですけどね、やっぱり心ですよ。もっともっと子どもたちの目の輝きを曇らせないように、我々の仕事でしょう。園児たちはできないですよ。ぜひしていただきたいと思えますね。

市長は確かにひらめきは早い。判断力、決断力も早い。一生懸命サポートしてもらおうんですね。しかし、相手に心が伝わらなければ、ひらめきは単なる思いつきになるんですね。言い方は悪いですけどね。決断の早さが説明不足につながっていくんですよ。だから、もっとゆっくりでいいじゃないですか。取りかかるのは早く、ゆっくり。そして、しなければならぬのは逆に抱え込まないことなんです。早く民間を信用して立ち上げて、動き出したら民間活力ですか、手渡してやる、それが必要だと思います。一生懸命やられるのはわかります。しかし、先ほど宮本議員もおっしゃっていましたが、説明不足、これはやっぱり思ってください。もっとスピードを緩めて、そして説明をしていく、こういう姿勢が大事だと思います。

そして、例えば、がばいとかレモン、がばいばあちゃんとかは非常に夢のあったですね。私のようなばかな頭は余り考え切らんやった。例えば、がばい武雄のいなかレモンとか、が

ばい武雄のみよちゃんまんじゅう——これはいどこですけどね。とか、がばい武雄の何とかと言いながらをする。そしてもう1つ、市長、私はぜひこれだけ見たいのが1つあるとですよ。バスの窓に「呼子朝市とがばい武雄の灯籠まつり」とか、そしたら泊まりは武雄ということでしょう。今後発展していきたいと思えますけれども、ぜひともそういうことが必要だと思いますね。

北方の話ばかりですけれども、北方で松本町長が昭和49年に町長になられて、毎月10日午後8時から、8期32年間、1カ月も欠かさずされたのが夜の町長室なんです。いつでもいらっしやいと。それはすべて解決することじゃないんですね。人の悩みを聞いてやる。一緒に悩む、一緒に考える。それで、できれば早く解決してやる。そういう温かい政策を。市長は切れ者なるがゆえに冷たさが見えるですよ。これは切れ者の宿命ですよ、あなたのですね。

だから、市長、金がないときは特にそのように心の行政が求められておりますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

背中に汗を流しながら聞いておりました。確かにどんなに説明していても、市民の皆さんの心に届かないと、その施策、あるいは政策というのがなかなか機能しないなというのは、この3年間、特に市民病院をめぐるあり方について、ほとんど思いましたので、先ほどのスピード論の話も出ましたし、いろいろ話が出ましたけれども、来年度は多聞第一、多くの人から多くのことを聞いて、それを市政運営に生かしていく。そして、よく言われるのは、私は非常に早口であると。大体自信がないときは早口になりますけれども、ゆっくり話していこうと。そして、長くなりますけれども、「正」という漢字は、あるお坊さんから聞いたのは、一たとまとると、それが正しいということを受けましたので、一たとまって踊り場で考える、そういうことを私はしていく必要があるのではないかというふうに思っております。

市長を3年させていただいて、途中ちょっと空白はありましたけれども、させていただいて、だんだん武雄市のこともわかってきましたし、自分の内面のこともそれに合わせてわかるようになってまいりました。それを市勢発展のためにつなげていきたいと、このように決意をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

あと1つだけ、どうしても合併で聞いておきたいのが、大町町との市町村合併を現段階で

どう考えるかという問題なんですね、基本的にですね。いろいろあるかわかりません。基本的にどう考えるか。

といいますのも、病院問題も一段落と言ったら怒られるかもしれませんが、一定の方向を見た。そういうことで、また我々の任期があと1年しかない。大町はあと2年ありますけれども、我々の決意によって向こうも動くと思いますので、簡潔で結構ですので、市長の考えの基本をぜひとも教えていただきたいと思いますが、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私個人、これは議会でも申し述べておりますけれども、やはりこれは隣人の自治体に対しては温かい気持ちを持つべきだろうというふうに思っております。そして、私は何よりも感謝するのは、やはり黒岩議員であります。こういった議会で合併の話を持ち出すと言ったら失礼になりますけれども、もっと議会で、一般質問の場であるとか、あるいは総務常任委員会になるかもしれません。さまざまな場でぜひ御議論を深めていただいて、その上で機運を高めていく。これは議会の持たれる役割は極めて大事だと思います。最終的にはこれは議会の議決になりますので、そういった意味で、一たん立ちどまって、議会の皆様方、市民の皆様方の御意見をしっかりと聞いていきたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

実は私、請願書を出そうかな、どうしようかなと迷ったんですね。しかし、請願書を出す勇気もなかったんですからね、一応市長と話をしながら、あるいは問題点、問題点で解決できるかできないか考えながらいったらなということで質問したわけでございます。わかりました。

次、病院問題に移りたいと思います。

資料はやっていると思いますけれども、いいでしょうか。社会医療法人ですね。市長、私が1年半かけて市民病院問題を全く知らないときからずっといろいろ勉強させられて、考えてきた結論が、これだというのが出てきたんですよ。つまり市民病院の役割、これは自治体病院というのは、市民病院というのは、公的な医療ですね。これはしょっちゅうもめよるところですね。それと赤字問題、財政問題。だから、赤字をとって民営化したら公的医療ができないじゃないとか、公的医療をするために赤字でもいいとか、しょっちゅう1年半、ここで論議してきたと思うんですね。この前、ふと見たところが、今問題なのは赤字解消と公的医療ができれば一番いいわけでしょう。一番いいんですよ。そのことができるかどうかで

1年半ここで論議しましたけれども、一つの結論ですけれども、今、池友会が、この前ですけれども、社会医療法人の申請をしているんですよ。社会医療法人、御存じですか。——はい、御存じですね。この社会医療法人、私も初めて聞きました。

それで、これは公益性の高い病院ですよ。（パネルを示す）これは資料ですけれども、社会医療法人とは、現在、医療法人というのは地域の医療の主役を担っている。最近では、どこでも一緒ですけれども、公益性の高い自治体病院、つまり公立病院が地方財政の逼迫化、財政危機なんですよ。財政危機で赤字体質の慢性化、どこでも一緒だと。非効率的な状況ですよ。あるいはまた医療機関自体の閉鎖、銚子市ですよ、あちこちありますね。これに陥ってきている。そこで、その受け皿として地域の医療の主役を本格的に担いつつ、医療法人の民間としての運営上の知恵を生かし、効率的に取り組むため、平成19年度より公益性の高い社会医療法人ができた。つまり自治体の受け皿としてできたんですよ。これによって特別医療法人が24年になくなりますね。逆にいえば、特別医療法人をなくすからこれができたのと一緒なんです。

今現在、全国で昨年末で12法人が社会医療法人になっております。その特徴というのは、救急医療、へき地医療など公益性の高い医療を担わなければならない。自治体病院民営化の公募の際に一般の医療法人よりも有利になる。これは公益性の高い社会医療法人ですよということだから有利になるんですよ。さらには社会医療法人債を発行する場合、財務諸表監査が義務づけられるんですよ。それと社会医療法人債の発行が可能。それから、自治体病院の遊休病床が優先的に割り当てられる、これが社会医療法人なんです。これを池友会が目指しているんですよ。そしたら、我々が地域のためにやるのかと、銭もうけするとやなかとかと、ヘリコプターばかりつくって——それは違ったですよ。いろいろ言われますけど、これできないんです。公益性の高い病院を目指さないとだめなんですよ。だから、いかにも、間違えてでしょうけれども、いろんな分を使ってペイしなければならぬので、医療費にかけるように言いますが、できないですよ。いきなり飛んできましたね。国保に絶対はね返らん。はね返ったら大変ですからね。手が回りますからね。だから、そういう公益性の高い医療法人を目指しているというんですよ。

このことについて、市長、まずどう思われるかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

池友会が社会医療法人の申請をされているということについては、承知をしております。これは非常に高いハードルがありまして、これを申請することそのものが非常に医療界で高い評価を受けているということ、そして、これがそういうふうにもし認可になると、それだけ高い公益性があるということが認められること。私は池友会がそういった医療面の促進と

いう意味から、社会医療法人に申請をされているということ自体は素晴らしいことだというふうに認識をしております。

もとより社会医療法人の説明は黒岩議員がお話ししていたとおりでありますので、私のほうからは省略させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それで公的医療の解決ができたんですね。赤字の解決もできたと思ったら、1つ問題が出てきたんですね。これはそういうところだから、税制の免除があるんですよ。私は7月16日の討論の中で、ぼろくそ言われましたけれども、やっぱり誘致企業の側面があるんだと言ったんですね。それは固定資産税なんですよ、欲しいのは。それが免除になるんですよ、社会医療法人でいけば。私は企業を誘致して、例えば、北方はよくやってきましたけど、5年なら5年、取れるけど、市が免除するのと丸々免除とは違うんですね。このことで非常に悩んでいますけれども、何とかこの社会医療法人もしてもらうて、銭も取られるごと、固定資産税もいただけるように、それはやっぱりいろんな方策を考え——というのは、市長、この病院だけじゃないですよ、今からずっと広げるといいますからね。中間市なんかすごいですよ、医療のまちね。広げていくから、やっぱり固定資産税は絶対ばかにしたらいかんですよ。ぜひともこのところをお願いしたいと思います。

それから、これは市長、私の部落なんですけれども、ぽっかぽか・虹の丘館、ぽっかぽか・武雄館というのが北方に2つある。2棟で60戸ですかね。これはシニアマンションなんですよ。24時間体制の療養型の個人のシニアマンションですね。鶴崎理事長は病診連携、病病連携を打ち出されておるんですね。本当にやってくれると思いますけれども、このシニアマンションは施設や診療所とちゃんと手を結んでいるんですね。診療所と手を結んで、往診にも来てもらうし、何かあったときはそこに飛んでいくという契約を結んでいる。そこまでしておられます。しかし、鶴崎理事長は病診連携はすると言っておられますので、ぜひとも病診、診療所はこのぽっかぽかから何かあったときには送ってやれば、市民病院と診療所、施設とトライアングルつくっていただければ、すべてがよくなると思います。それはなぜか。それはぽっかぽかマンションの古藤社長ですよ。これは新聞に載ったんですけどね。新聞ですから、平均的なあれですね。「高齢化が進み、介護施設へのニーズが多様化するなか、県内で高齢者専用賃貸マンションの建設が活発化している。24時間の介護体制が整い、65歳以上なら誰でも入居できる」「各30部屋のマンションに介護施設を併設し、介護士らが24時間体制で常駐しているのも売り。「死ぬまで安心して暮らせる場所」を求めるお年寄りと家族のニーズに合致した」と。ここはちょっと普通と違うのは、「要介護度が低くなると施設を出なければならないケアハウスなどもあり、施設を転々とするお年寄りは多い」。そこで、

入居時にいつも聞くのが、ずっと入っていられるのかという質問の多さだと。そこで、「入居基準を設けないことと同時に、何十年と続けてきた習慣をできるだけ継続してもらおう」、つまり先ほども言いました死ぬまで安心して暮らせる介護付きのシニアマンションですよということですね。そういうことを目的でやっておられるですね。だから、ここがしていることが、在宅では生活が困難で、病院や施設を転々とされている方、先ほどもだれか出ましたね。それから、急性期が過ぎて退院を迫られている方、これも出ましたね。あるいはまた、病院から出ても家族がどうしても受け取れなくて、普通の介護施設にも行けない人、何とか難民で出たですね。そういうところはぜひという形で、今、北方にできたんですね。

それはそれですけれども、今、施設と診療所とは契約を結んでいますので、今度、病院と結んで、よりお年寄り、あるいは診療所もよくなると思いますからね、そこら辺について、ぜひ市長が音頭を取って、そういうことを契約ができないかと思しますので、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、ぽっかぽかは、私は馬神のほうに何度か施設見学に行っ、これはすごいところだなと思いました。本当に施設の雰囲気もいいですし、恐らく今後伸びていくのは、こういった形態が伸びていくんだろうというふうに思ったんですね。これは私に限らず、例えば、日経新聞の健康雑誌であるとか、いろんな新聞に、今、古藤さんが取り上げられていますけれども、古藤さんもおっしゃっているように、病院と診療所と、ぽっかぽかはぽっかぽかというふうに施設と三角関係というか、そういう関係をぜひ結んでいきたいというふうにもおっしゃっていますので、恐らくこれがきちんとできることになると、全国に向けた新たな福祉モデル、医療モデル、介護モデルの構築に当たるのではないかと考えておりますので、そういう面から、私たちといたしましては、市民病院等に働きかけてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ありがとうございました。事務長、2月26日、ドクターヘリがやってきたんですね。初めですよね。10時56分、ちょうど4階で見ていたんですけども、市民病院に入院中の女性、75歳の方ですね。脳腫瘍の手術のために和臼のほうに行かれたんですね。御存じですよね。これは非常に危ない箇所だということで、ここでは施設が怖いと。向こうがスタッフも多いということらしいですけども、ドクターヘリが初めて飛んだんですね。注目もありますので、そういうときの経費その他どういうものだったのか、もう少し詳しいことがわかってい

れば答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

2月26日にドクターヘリが参りまして、市民病院の入院患者を和臼病院のほうに運び、その後、手術を和臼病院でされるということで、御指摘のとおりございました。

経費面につきましてですけれども、ドクターヘリを運行することによる患者様の負担はないということでございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

武雄市にドクターヘリをつくるから、その分は患者から取られるとか、あるいはまた建物とか、そういう手術をすればどうだとか、患者を向こうに持っていくとか、くらし部長、そんなことはできないですよ。したら手が回りますよね。

そこで最後に、質問に行きたいと思いますが、最後にまとめますけれども、私は市長は確かに仕事はできる人だと思っております。それは実際です。しかし、先ほど言いましたように、たとえどんな立派な仕事ができても、市民の皆さんの心に響かなければ何もしなかったと同じだということを常に謙虚に忘れないでほしいと思います。

私自身、議員活動にはまだまだ3年たったって非常に不安を持っております。武雄市の議員さんたちについていけるだろうかとか、本当に不安を持っております。精いっぱい背伸びして頑張っておりますけれども、北方町や山内町の職員もやっぱり心のどこかにはまだまだ不安を持っていると思うんですね。まして北方や山内の一般の市民の方々は大変な戸惑い、先ほど出る出しましたけど、大変な不安を持っていると思うんですよ。市長はさきの洗礼を受けられて、やっぱり変わったという声が多いです。褒め言葉が多いですね。私自身もやっぱり変わられたなと思います。しかし、さらに市民の皆さんに対して、温かい思いやりのある心、子どもやお年寄り、そして社会的に弱者と言われる方々のつえとなって、盾となって頑張っていただきますように、そしてまた市民、特に北方町や山内町の皆さん方に武雄市と合併してよかったと言われるような温かい心ある血の通った行政をしていただきますよう苦言を呈しまして、一般質問を終わります。どうもお疲れでした。ありがとうございました。